

講義要項

科目	情報処理技術論	担当講師	土屋 晃一
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	情報処理の技術を学び、収集した多量の情報を目的に応じた形に加工するための方法を学ぶ。コンピューターを駆使した文章作成方法を学ぶ。		
目標	リハビリテーション過程や研究などで得られた情報を有効に活用できるように、以下の目標を掲げる。 1. 情報の種類に応じた分類、整理ができる。 2. 情報の特徴に合わせた演算方法が選択できる。 3. コンピューターを使用して情報の整理ができる。 4. 整理した情報を元に、コンピューターを使用して文書の作成ができる。		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	1. 「できる」シリーズ インプレス		
学習評価	3ソフトの成果物および積極性加算の合計を100%とし、60%以上で合格とする。 3ソフトの成果物に対する評価の割合は以下の通りとする。 「マイクロソフトワード」30%、「マイクロソフトエクセル」30%、「マイクロソフトパワーポイント」30%、積極性加算10% 合計100%(100点) ただし、出席状況、レポート、発表などを加味し総合的に評価する。		
備考	積極性加算は、授業に能動的に参加する(手を挙げて回答をする。困っているクラスメートを助ける。率先して課題を提出する。リーダーシップを発揮する。)ことにより、加算します。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	情報とは	講義・演習
2	情報の種類と処理法	講義・演習
3	処理法各論①	講義・演習
4	処理法各論②	講義・演習
5	情報処理1 エクセルを用いた情報処理①(データ集計)	講義・演習
6	情報処理1 エクセルを用いた情報処理②(統計処理)	講義・演習
7	情報処理1 エクセルを用いた情報処理③(表の作成・グラフ化)	講義・演習
8	情報処理1 エクセルを用いた情報処理④(表の作成・グラフ化)	講義・演習
9	情報処理2 ワードを用いた処理①(文書作成)	講義・演習
10	情報処理2 ワードを用いた処理②(文書作成)	講義・演習
11	情報処理2 ワードを用いた処理③(レポート作成・表図の挿入)	講義・演習
12	情報処理2 ワードを用いた処理④(レジュメ作成・段組みなど)	講義・演習
13	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション①	講義・演習
14	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション②	講義・演習
15	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション③	講義・演習

講義要項

科目	外国語	担当講師	John Gomez・高橋 悠
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	医療現場で働く者として、また生涯にわたり医療を学び続ける者にとって、英語の理解、活用が必要である。 この科目では、平易な日常英会話を学ぶと共に、国際社会の中で積極的に英語でのコミュニケーションを実施していく姿勢を学ぶ。 また、療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を学ぶ。		
目標	1. 平易な日常英会話のレベルにおいて、英語でのコミュニケーションが実施できる。 2. 療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を理解する。 3. 療法士に必要な医療・リハビリテーションに関わる英文の読み取り方が理解できる。		
教科書	1. 医療職が覚えておきたい運動・動作の英語表現 医学書院 2. 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語 南雲堂 3. リハビリテーション英語テキスト 南江堂		
参考書	各自辞書を準備して授業に臨むこと。		
学習評価	Reading50%とSpeaking50%で100%とし、そのうち60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	講義内容 1～7 Reading(読解):専任教員 8～15 Speaking(話す):外部講師		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	Lesson1 Reading 1	講義
2	Lesson2 Reading 2	講義
3	Lesson3 Reading 3	講義
4	Lesson4 Reading 4	講義
5	Lesson5 Reading 5	講義
6	Lesson6 Reading 6	講義
7	Lesson7 Reading 7	講義
8	Lesson8 Basic Words and Phrases	講義
9	Lesson9 Body Parts and Organs	講義
10	Lesson10 Symptoms and Diseases	講義
11	Lesson11 Medical Terminology	講義
12	Lesson12 Finding Your way Around	講義
13	Lesson13 Representation of the basic operation	講義
14	Lesson14 Representation of the activities of daily life	講義
15	Lesson15 Representation of the movement	講義

講義要項

科目	自然科学概論	担当講師	滝 章介
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	人間は自然の一部であり、リハビリテーションは人間を扱う職業となるので、自然科学の基礎的知識を身につけることは極めて重要である。さらに自然の事物・現象について理解を深めるとともに、自然の仕組みを解き明かす方法も学ぶ。		
目標	自然科学の本質、科学を成り立たせている原理や規則性を理解し、専門科目への土台を築いていく。		
教科書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション生物学:細胞の基本構成・細胞膜の平衡を保つメカニズム	講義
2	生物学:細胞膜を介した物質の輸送	講義
3	生物学:細胞分裂(減数分裂含め)・タンパク合成	講義
4	生物学:遺伝の法則	講義
5	生物学:胚葉の分化と器官形成	講義
6	生物学:神経の種類・筋収縮のメカニズム	講義
7	生化学:化学組成・イオン	講義
8	生化学:化学組成・電解質	講義
9	生化学:pHの調整(酸・塩基)	講義
10	運動学:力学の基礎(ベクトル・モーメント・トルク)	講義
11	運動学:重心・支持基底面・安定性の要素	講義
12	運動学:仕事とエネルギー	講義
13	運動学:テコの原理	講義
14	運動学:身体における3つのテコ	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	公衆衛生学	担当講師	野寺 誠
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。 「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。」 人間社会を取り巻く社会環境の諸要因を理解し、保健・医療・福祉領域における情報指標の捉え方および情報収集能力を習得する。		
目標	公衆衛生学とは何か説明できる。 1. 健康、健康増進とは何か説明できる 2. 感染症、疾病予防、生活習慣予防について説明できる 3. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる 4. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる 5. 公衆衛生に対して、理学療法士、作業療法士が何が出来るか説明できる		
教科書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書	適宜資料を配布する。		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容：

回数	内容	学習法
1	公衆衛生学とは	講義
2	健康の指標	講義
3	感染症	講義
4	感染症とその予防	講義
5	食品保健と栄養	講義
6	生活環境論の安定	講義
7	地域保健活動	講義
8	母子保健	講義
9	学校保健	講義
10	生活習慣病	講義
11	精神保健福祉	講義
12	産業保健	講義
13	医療制度	講義
14	健康教育	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	基礎解剖生理学	担当講師	神山 真美・長江 真代
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	人体の構造と機能および生命維持のメカニズムを学ぶ。 解剖学・生理学などの基礎医学について、円滑に学習が進められるよう人体理解の基礎を身につける。 リハビリテーションの対象となる方をイメージし、疾患状態から解剖生理学の知識と必要性について学ぶ。		
目標	1. 人体の構造について名称・位置が説明できる。 2. 人体において重要な役割を持つ部分について、その機能が説明できる。 3. 疾患像(症状)をイメージし、人体の部位・名称と機能を総合的に考察することができる。		
教科書	1. サイエンスビュー 生物総合資料 実教出版 2. 日本人体解剖学 上下巻 南山堂 3. 生理学テキスト 文光堂 4. 基礎運動学 医歯薬出版株式会社 5. リハビリテーション運動生理学 メジカルビュー社 6. メディカルスタッフ専門基礎シリーズ 新版 生理学 理工図書		
参考書	1. 病気がみえる Vol.2 循環器 第4版 2. 病気がみえる Vol.4 呼吸器 第2版 3. 病気がみえる Vol.7 脳と神経 第2版 4. 病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科 5. エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 南江堂 ※その他、必要に応じて書籍紹介・資料配布		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	1. 事前課題が課された場合には、授業前に実施することを前提とします。 2. 講義ごとの予習・復習を必須とし、既定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 3. グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

講義内容：

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション神経細胞の構造と働き	講義
2	脳血管疾患から学ぶ「脳の機能と構造」	講義
3	脳血管疾患から学ぶ「脳の機能と構造」	講義
4	脳血管疾患から学ぶ「脳の機能と構造」	講義
5	脳血管疾患から学ぶ「脳の機能と構造」	講義
6	運動器疾患から学ぶ「脊椎・脊髄の機能と構造」	講義
7	運動器疾患から学ぶ「脊椎・脊髄の機能と構造」	講義
8	運動器疾患から学ぶ「脊椎・脊髄の機能と構造」	講義
9	循環器疾患から学ぶ「心臓の機能と構造」	講義
10	循環器疾患から学ぶ「心臓の機能と構造」	講義
11	循環器疾患から学ぶ「心臓の機能と構造」	講義
12	呼吸器疾患から学ぶ「呼吸器の機能と構造」	講義
13	呼吸器疾患から学ぶ「呼吸器の機能と構造」	講義
14	呼吸器疾患から学ぶ「呼吸器の機能と構造」	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	解剖学	担当講師	穂田 真澄
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な構造を理解する必要がある。解剖学では、特に循環器・神経系の構造について学ぶ。さらに、呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌に属す器官の構造を学び、これらの器官が人間の動きの中でどのような役割を果たしているかを併せて学習する。</p>		
目標	<p>循環器・神経系の構造を各論的に学ぶと共に、内臓に属している各器官の構造と機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる。 2. 神経系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる。 3. 内臓に属している各器官の名称をあげ、構造を説明できる。 4. 内臓に属している各器官の機能的役割を説明できる。 		
教科書	日本人体解剖学 上下巻 改訂20版 南山堂		
参考書			
学習評価	<p>筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考			

講義内容：

回数	内容	学習法
1	解剖学総論(序論)	講義
2	循環器系①	講義
3	循環器系②	講義
4	循環器系③	講義
5	循環器系④	講義
6	循環器系⑤	講義
7	循環器系⑥	講義
8	呼吸器系①	講義
9	呼吸器系②	講義
10	呼吸器系③	講義
11	消化器系①	講義
12	消化器系②	講義
13	消化器系③	講義
14	消化器系④	講義
15	泌尿器系①	講義
16	泌尿器系②	講義
17	生殖器系①	講義
18	生殖器系②	講義
19	内分泌系	講義
20	神経系①	講義
21	神経系②	講義
22	神経系③	講義
23	神経系④	講義
24	神経系⑤	講義
25	神経系⑥	講義
26	神経系⑦	講義
27	神経系⑧	講義
28	感覚器①	講義
29	感覚器②	講義
30	補足・まとめ	講義

講義要項

科目	運動機能解剖学	担当講師	高橋 悠
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	<p>「解剖学は人体の構造を究める学問であり、医学基礎中の基礎をなす学問である。」 作業療法評価・治療において、人体の正常な形態、構造、機能を理解していることが重要である。 運動機能解剖学では、解剖学の中の運動に関する骨・関節・靭帯・筋・神経の名称、位置、構造、作用等について学習する。 また、運動の指令を行う神経系等の解剖学と合わせ、総合的な人体の構造、機能について学習する。</p>		
目標	<p>骨・関節・靭帯・筋・神経の形態、構造を理解すると共に、全身の骨・関節・靭帯・筋・神経が運動の中でどのように機能しているかを学び、運動に関する解剖と機能を説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動を表現する用語が適切に使用できる。 2. 運動に関する組織の名称、位置、形態、構造、作用が説明できる。 3. 運動に関する組織の機能を説明できる。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人体解剖学 上巻 改訂20版 南山堂 2. 日本人体解剖学 下巻 改訂20版 南山堂 3. 基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 4. エッセンシャル・キネシオロジー(原書第3版) 機能的運動学の基礎と臨床 南山堂 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 メジカルビュー社 2. 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 メジカルビュー社 3. 病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科 MEDIC MEDIA 		
学習評価	<p>筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考	<p>予習を必須とし、事前課題を提示する場合もある。 カラーペン(骨部位や靭帯の色を塗ります)・はさみ等作業に必要なものを準備すること。</p>		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション、総論1	講義
2	総論2『骨』骨の構造と機能	講義
3	総論3『関節・人体』関節・靭帯の構造と機能	講義
4	総論4『筋・神経』筋・神経の構造と機能	講義
5	骨・関節・靭帯1:頭蓋骨	講義
6	骨・関節・靭帯2:脊柱	講義
7	骨・関節・靭帯3:胸郭	講義
8	骨・関節・靭帯4:肩甲骨	講義
9	骨・関節・靭帯5:上腕骨・肩関節	講義
10	骨・関節・靭帯6:肘関節・前腕	講義
11	骨・関節・靭帯7:手関節	講義
12	骨・関節・靭帯8:手部	講義
13	骨・関節・靭帯9:骨盤	講義
14	骨・関節・靭帯10:股関節	講義
15	骨・関節・靭帯11:大腿骨・下腿	講義
16	骨・関節・靭帯12:膝	講義
17	骨・関節・靭帯13:足関節・足部	講義
18	骨・関節・靭帯14:まとめ 形成的評価	講義
19	筋・神経1:肩関節の筋	講義
20	筋・神経2:腕神経叢	講義
21	筋・神経3:上腕・肘の筋	講義
22	筋・神経4:前腕・手関節の筋	講義
23	筋・神経5:手外在筋	講義
24	筋・神経6:手内在筋	講義
25	筋・神経10:頸部・脊柱背部の筋	講義
26	筋・神経11:胸部・腹部・骨盤の筋	講義
27	筋・神経12:頭部・顔面の筋	講義
28	筋・神経7:大腿の筋	講義
29	筋・神経8:下腿・足の筋	講義
30	まとめ 形成的評価	講義

講義要項

科目	医学概論	担当講師	中村・上野・久保田・奥村・渡邊・高島・神山・加藤
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や病気の成り立ちと基本的な診断・治療について学ぶ。		
目標	以下の項目について、医療人の立場で学び、理解する 1. 医学の成り立ち 2. 医療従事者の基本姿勢(生命倫理、医の倫理、人の尊厳等)について 3. 健康および病気についての概念 4. 病気の成り立ちと、基本的な診断・治療(リハビリテーションを含む) 5. 診療科の名称と内容、病期について 6. 医療安全、医療システムについて		
教科書			
参考書	必要な資料は適宜配布する。		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	医学の成り立ち(歴史、変遷)	講義
2	医療とは(現代における医療の範囲等)	講義
3	人の尊厳・生命倫理	講義
4	医の倫理・理学療法および作業療法倫理①	講義
5	医の倫理・理学療法および作業療法倫理②	講義
6	健康、疾病、障害	講義
7	病気の成り立ち(予防、発症、治療、回復過程)	講義
8	診療科の名称と内容	講義
9	基本的な診断と治療①	講義
10	基本的な診断と治療②	講義
11	最先端医療	講義
12	病気の治療とリハビリテーション	講義
13	病期ごとの特徴(急性期～終末期)	講義
14	医療安全	講義
15	医療の質/医療システム	講義

講 義 要 項

科目	病理学	担当講師	渡邊 俊宏
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	病理学とは、病気を解明する学問である。 本講義では組織・細胞レベルで病気の本態を学習する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な病気の定義を学ぶ。 2. 主な病気の成り立ちやを学ぶ。 3. 病理学的解釈で病気を理解する。 		
教科書	なるほどなっとく！病理学 南山堂		
参考書			
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容：

回数	内容	学習法
1	病理学について	講義
2	萎縮	講義
3	肥大	講義
4	変性	講義
5	化生	講義
6	壊死	講義
7	再生	講義
8	循環障害	講義
9	循環障害	講義
10	免疫	講義
11	免疫	講義
12	炎症	講義
13	炎症	講義
14	腫瘍	講義
15	腫瘍	講義

講義要項

科目	リハビリテーション概論	担当講師	奥村 博文
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	リハビリテーションの理念、歴史、その種類、障害構造と生活機能分類(ICF)について学ぶ。 また、リハビリテーションの将来像について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味・目的について説明できる 2. 急性期・回復期・維持期のリハビリテーションについて説明できる 3. 医学的・教育的・職業的・社会的リハビリテーションについて説明できる 4. 障害構造論と生活機能分類について説明できる 5. 障害受容とその過程について説明できる 6. リハビリテーションの将来像について説明できる 		
教科書	指定無し		
参考書	指定無し		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	グループワークではメンバー個々が積極的に発言し、議論に参加する事。 提出物は指定された期限を遵守する事。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	コースオリエンテーション リハビリテーションって何だろう	個人ワーク ・講義
2	リハビリテーションの歴史、定義、概念	講義
3	リハビリテーションの時期的分類	グループワーク ・講義
4	リハビリテーションの分野的分類	グループワーク ・講義
5	リハビリテーションアプローチ① 時期的分類・分野的分類で行うこと	グループワーク ・講義
6	リハビリテーションアプローチ② 時期的分類・分野的分類で行うこと	グループワーク ・講義
7	障害構造論ICIDHと生活機能分類ICF	グループワーク ・講義
8	生活機能分類ICF	グループワーク ・講義
9	生活機能分類ICFの考え方と目標設定	講義
10	現在の日本とこれからの日本	グループワーク ・講義
11	これからの日本においてセラピストに求められるもの	グループワーク ・講義
12	リハビリテーションの方向性① 生活行為向上マネジメント	グループワーク ・講義
13	リハビリテーションの方向性② 地域包括ケアシステム	グループワーク ・講義
14	障害受容・最終プレゼンテーション準備	個人ワーク ・講義
15	最終プレゼンテーション発表	全員発表

講 義 要 項

科目	ケアクラークシップ	担当講師	吉田 真奈美・高橋 悠・加藤 研太郎・塩澤 智美
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・実習2単位・60時間
概要	一人の介護職員につき、実際の介護業務に参加しながら、介護の方法、利用者さまとの接し方など介護の基本を体験する。その中で以下の3つの目標を達成できるよう学習する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護体験を通じて、介護される側の気持ちを推測することを含める介護業務を理解する。 2. 対象者の介護補助を見聞・体験する中でADLの実施状況を知る。 3. 対象者のリハビリテーションを見学させていただき生活状況とリハビリテーションの関係を理解する。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱 2. その他事前配布資料 		
参考書			
学習評価	学習態度(学内学習・学外実習における学習態度・行動、基本的態度)、出欠席状況(遅刻・早退・欠席とそれにとまなう報連相)、および提出物について総合的に評価する。詳細は別紙および学生便覧に準ずる。		
備考	別紙については『令和2年度～ 先行体験実習・解剖見学実習の成績評価について』参照。		

講義内容：

回数	内容	学習法
1	【事前セミナー】 1. 学生として相応しい行動のシュミレーション 2. 介護される側の体験 3. 介護老人保健施設の基礎知識 4. 日常生活動作(ADL)の見方	演習・実習
2		
3		
4		
5	【実習1日目～5日目】 1. 社会人、医療人としての基本的態度 2. 介護の見聞と補助 3. 対象者との対人関係の形成 4. 対象者の生活状況の把握とリハビリテーションとの関係性を知る 1) ADLの見学 2) リハビリテーションの見学	実習
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25	【事後セミナー1日目～1.5日目】 1. 実習での学習内容の振り返り 2. 生活障害と介護の結びつきについて	演習・実習
26		
27		
28		
29		
30		

講義要項

科目	作業療法概論実習	担当講師	高橋 悠・塩澤 智美・岸 潤樹
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・実習1単位・45時間
概要	入学後、基礎分野の学習開始前に実施する学外演習であり、下記3項目を目的とする。 1. 作業療法士の臨床現場を見学し、自己が目指すものを再確認する。 2. 作業療法士として必要な態度や心構えの理解を深める。 3. 実際に見聞して感じたことを1年次の基礎分野の学習のきっかけとする。		
目標	1. 自己が目指すものを再確認できる。 2. 医療人・社会人として必要な態度や心構えを説明できる。 3. 作業療法士の業務を見学することで、基礎分野を学習することの必要性を確認・認識できる。		
教科書	1. 作業療法概論実習 実施要綱 2. 評価ファイル 3. 事前・事後セミナー配布資料		
参考書			
学習評価	学習態度(学内学習・学外実習における学習態度・行動、基本的態度)、出欠席状況(遅刻・早退・欠席とそれともなう報連相)、および提出物について総合的に評価する。詳細は別紙および学生便覧に準ずる。		
備考	別紙については『令和2年度～ 先行体験実習・解剖見学実習の成績評価について』参照。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	事前セミナー 1日目	演習・実習
2	1)実習内容について	
3	2)医療人・社会人に相応しい振る舞いについて	
4	事前セミナー 2日目	
5	1)作業療法士の職業について	演習・実習
6	2)作業療法プロセスの説明	
7	事前セミナー 2日目	
8	1)臨床現場で想定される事態のシミュレーション	
9	2)必要書類の確認	演習・実習
10	概論実習 1日目	
11	1. 臨床業務の見学	
12	2. 作業療法プロセスについての理解	
13	3. 対象者とのコミュニケーション	演習・実習
14	4. 掃除・片づけの手伝い	
15	概論実習 2日目	
16	1. 臨床業務の見学	
17	2. 作業療法プロセスについての理解	演習・実習
18	3. 対象者とのコミュニケーション	
19	4. 掃除・片づけの手伝い	
20	概論実習 3日目	
21	1. 臨床業務の見学	演習・実習
22	2. 作業療法プロセスについての理解	
23	3. 対象者とのコミュニケーション	
24	4. 掃除・片づけの手伝い	
25	事後セミナー	演習・実習
26	1)作業療法士に必要な要素の確認	
27	2)作業療法プロセスの理解	
28	3)今後の自己目標と行動計画	
29		
30		
31		
32		
33		
34		

講義要項

科目	作業療法概論 I	担当講師	高橋 悠
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	この科目では、定義、歴史、倫理、関連法規、領域、理論等、作業療法の基礎について学ぶ。さらに、作業療法のプロセス(過程)と、ICFや生活行為向上マネジメント、問題解決モデル等の分析ツールについても学習する。また、各病期における作業療法の意義や目的、各分野における作業療法プロセスについても学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の定義、歴史について説明できる。 2. 作業療法の目的、役割、対象、職域、倫理について説明できる。 3. 作業療法のプロセスについて説明できる。 4. ICFや生活行為向上マネジメント、問題解決モデル等の分析ツールについて説明できる。 5. 各病期における作業療法の意義・目的について説明できる。 6. 各分野における作業療法の概要について説明できる。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学 作業療法学概論 第3版 医学書院 2. 標準作業療法学 身体障害作業療法学 第3版 医学書院 3. 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 		
参考書	適宜配布する		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、提出課題、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容：

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 作業療法の定義、歴史、作業とは	講義
2	作業療法の領域(対象、実践の流れ、実施場所) OTPF	講義
3	作業療法の理論、EBM①	講義
4	作業療法の理論、EBM②	演習・実習
5	作業療法プロセスと各分析ツール①	演習・実習
6	作業療法プロセスと各分析ツール②	講義
7	作業療法プロセスと各分析ツール③	演習・実習
8	各病期における作業療法の意義・目的	演習・実習
9	障害体験①	演習・実習
10	障害体験②	演習・実習
11	作業療法実践過程① 個人ワーク	演習・実習
12	作業療法実践過程② グループワーク	演習・実習
13	作業療法実践過程③ グループワーク	演習・実習
14	作業療法実践過程④ 発表	演習・実習
15	まとめ	講義

講義要項

科目	基礎作業療法学	担当講師	塩澤 智美
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	作業療法にとって最大の特徴である「作業」に焦点を当て、作業療法の理論、作業活動の分類、作業が人に与える影響や相互作用、作業分析など、作業療法の「作業」に関する介入技術の基本的な理解を目指す。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業の概念(人にとっての作業、作業の成り立ち、作業の意味・形態・機能・階層など)について説明できる。 2. 作業の種類(分類)について説明できる。 3. 作業の要素について説明できる。 4. 作業を運動生理機能や心理機能の観点から説明できる。 5. 作業療法の基本的な理論(作業療法の理論・行動学習の理論)について説明できる。 6. ライフステージにおける作業との関わりを説明できる。 7. 作業分析を行うことができる。 		
教科書	1. 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法全書 改訂第3版 第2巻 基礎作業学 協同医書出版 2. ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 3. 「作業」ってなんだろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版 		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション、「作業」とは	講義
2	物作り体験と作業療法的視点①	演習・実習
3	物作り体験と作業療法的視点②	演習・実習
4	作業療法に関する基本的理論①	講義
5	作業療法に関する基本的理論②	講義
6	作業と運動生理機能①	講義
7	作業と運動生理機能②	実習・演習
8	作業と心理学①	講義
9	作業と心理学②	実習・演習
10	ライフステージと作業療法	講義
11	作業分析①	講義
12	作業分析②	演習・実習
13	作業分析③	演習・実習
14	作業分析④	演習・実習
15	まとめ	講義